

志木二中だより



令和2年度 9月号 令和2年9月1日(火)
志木市立志木第二中学校 志木市館1-3-1 TEL 048-473-2379

前向きな声掛けを

校長 本 庄 真

8月19日から2学期が始まりました。今年の夏休みは18日間と短く、生徒たちがどんな表情で登校してくるか少々心配していましたが、明るく元気な顔の者が多く安堵しました。

始業式で各学年代表が、「こんな状況で様々な制約がある中でもしっかりとやっていく。」「学習や部活動などやるべきことをきちんとやる。」との力強い言葉を言ってくれ感心しました。私からは、「同じことをやるにしてもやる気になって取り組むのと、嫌々やるのでは結果が変わってくる。大変な状況は続くが前向きに取り組んでいこう。」ということを話しました。



私的な話で恐縮ですが、梅雨明け前、私の誕生日に息子がゲーム機と付随するソフトを1つプレゼントしてくれました。私はゲームをしないのでなんだろうとやや面食らったのですが、それを使うと自宅でトレーニングができるというのです。4~6月はよく外を歩くようにしていたのですが、暑くなりそれもできなくなっていました。そんな折、やってみるとこれがなかなか面白い、ほぼ毎日、短時間ですが継続してやっています。なぜ続けられるのかを考えたとき、ひとつはゲームであるがゆえによく考えて作られているということ。対戦型でトレーニングを積み重ねていくとそれが実績となり自らの攻撃力、防御力がアップし、ステージも進んでいくようになっていきます。それともうひとつ、これが大きいと思うのですが、身体を動かしているとテレビの画面から「いいね!」「その調子!」「輝いているね!」などの「褒める言葉」がシャワーを浴びせるように出てくるのです。私は体が硬い方できちんとできていない動きもあるのですが、それでもやる気になる言葉がたくさんもらえます。そこがポイントであると感じています。

教育公務員特例法第21条に「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」とあります。教師になったらそれでよしではなく、いくつになっても学び続ける者しか人に教える資格はない、ということです。このような状況であるがゆえに教師一人ひとりがいま一度立ち止まって我が身を振り返り、職責とも言える「生徒に力をつける」「やる気にさせる」その方法や手段がどうであるか考えなければなりません。マイナス要素が多い世の中だけに、意識的にプラスになるような指導をしていく必要があります。学校では前向きな声掛けを行っていきます。ぜひご家庭においてもお子さんの良いところに目を向けて、やる気の出る声掛けをよろしく願いいたします。

末筆になりますが、本校の教職員は、休校明けの6月から感染症防止対策に気をつけながら、しっかりと授業をしようとして熱心に取り組んでいます。2学期になっても同様で、熱中症対策も考慮しながら動いてくれています。猛暑の日が続くので、それぞれの健康を損ねなければと思うこともしばしばです。これからも生徒にとって楽しい学校生活となるよう、教職員力を合わせ工夫しながら教育活動を行ってまいります。保護者、地域の皆様の引き続きのご支援をお願い申し上げます。